Hitachi Koki
POWER TOOLS for PROFESSIONAL

HITACHI
Inspire the Next

進化形
大容量ハンディタイプ
高耐久とさらなる静音化※1

低騒音※1 62dB (静音モード時)

2年保証※2 [点検時期お知らせ]※3 1200時間

ブラシレスモーター e MOTOR 高効率で経済的

タンク内空気量 360L (45気圧×8L)
空気タンク内最高圧力 45気圧 4.4MPa
Lock-on セキュリティ機能付 (EC 1245H2のみ)

日立工機 釘打機用 高圧エアコンプレッサ
EC 1245H2形 セキュリティ機能付　EC 1245H2(TN)形 セキュリティ機能なし

※1 当社従来製品EC 1245Hとの比較。
※2 ユーザー登録により、2年または実稼働1,200時間のどちらか先に到達するまで保証されます。条件により適用されない場合があります。詳しくは付属の保証書をお読みください。
※3 各種部品の高耐久化により、長く性能を維持してお使いいただけます(点検時期お知らせLED点灯後は、性能維持のために点検にお出しください)

日立工機株式会社
〒108-6020　東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟)
電話(03)5783-0626(代)　お客様相談センター 0120-20-8822(フリーダイヤル)
【電動工具ホームページ】http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

中小製造業の海外進出なら
私たちにお任せ下さい。

日刊工業グローバルビジネスサポートなら事業計画作成から、
現地法人設立、工場建設、操業準備までワンストップでお手伝いします。

進出相談から工場完成までを一気通貫で対応します。
中小製造業の強い味方になります。

事業計画作成 → 会社設立 → 土地取得 → 政府認可取得 → 工場建築 → 設備調達・据付 → 操業準備

日刊工業グローバルビジネスサポートは日刊工業新聞社のグループ企業です。

問い合わせ先
株式会社日刊工業グローバルビジネスサポート
〒103-8548　東京都中央区日本橋小網町 14-1(日刊工業新聞社本社内 3F)
担当：中島、藤坂、増田　電話：03-5644-7227　FAX：03−5644−7244
メール：fhiroshi@media.nikkan.co.jp

不動産・住宅・建材

日本力―未踏に挑む―

〝良い家〟次の世代に

中古住宅 循環利用

政府は2020年までに中古住宅・リフォーム市場の規模を倍増し、20兆円に拡大する計画を掲げる。リフォームにより住宅ストックの品質・性能を高め、流通環境を整備して中古住宅の循環利用を促す方針だ。新築中心からストック型の住宅市場へと、戦後以来の政策の転換が進む中、住宅・建材各社も取り組みを強化している。

「家は社会資産だ。我々は良い物件をリノベーションしながら次の世代に受け継ぐ役割を担っている」。優良ストック住宅推進協議会の和田勇会長(積水ハウス会長)は3月に都内で開かれた「スムストックシンポジウム2015」の壇上で熱弁を振るった。

同協議会は積水ハウスほか大手住宅メーカー10社で構成。良質な中古住宅の流通促進を図っている。「スムストック」は同協議会が定めた基準を満たす住宅のブランドで、建物を骨格(スケルトン)と内装・設備(インフィル)に分けて査定するのが大きな特徴の一つだ。スムストックは14年末に成約数が3000棟を超えたが同協議会では「まだまだ伸び代がある」と力を込める。

一方、政府も計画推進に向けてさまざまな施策を打ち出している。中古住宅の流通促進に向け、第三者が住宅を客観的に検査・調査する「インスペクション」のガイドラインを策定。20年までに性能評価住宅の流通割合を20%に高める。住宅履歴情報の蓄積・活用も進める。

優良ストック住宅推進協議会は良質な中古住宅の流通促進を図っている
(都内で開かれたシンポジウム)

基準定め査定 流通を促進

「省エネ住宅ポイント」制度も中古住宅・リフォーム市場の拡大につながる契機となるのは間違いなく、建材・住宅設備メーカーの期待感も強い。大手メーカー各社は同制度を一過性の景気対策に終わらせないため、需要の掘り起こしに乗り出している。

TOTOは水回り設備のリフォームに焦点を合わせ、ショールームでの提案強化や販売店向けの勉強会開催などいち早く手を打っている。YKKAPや大建工業との「TDYアライアンス」では住宅リフォームをトータルで提案する構えもみせる。LIXILは自社グループ内で住宅そのものから内装、外装、住宅設備などを一括して手がけられる強みを武器に攻勢を強める。

住宅リフォーム市場の拡大に伴い、施工現場で使われるツールにも変化が起きる。特にリフォームの現場は間取りの変更や耐震補強など、工事の種類や規模により多様なニーズがある。

そこで日立工機は小型軽量で取り回しに優れたエアコンプレッサーを市場に投入。クギ打ち機やネジ打ち機の動力源として、使い勝手の良さが施工現場から評価を受けている。建築現場では職人不足が慢性化しつつある。作業効率を高める意味でも、今後も多様なニーズに応える製品が各社から発売されそうだ。

〝五輪の後〟見据え再開発

「新たな東京」描く

東京都心の再開発が加速している。景気回復によるオフィスや商業施設のニーズ拡大に加え、2020年の東京五輪開催が不動産各社の動きに弾みを付けている。「都市力」の向上は日本の国際競争力を高める上でも欠かせない。五輪開催後も見据え、新たな東京の姿をどう描くのか。各社の取り組みが注目される。

日本を代表するビジネスセンターの東京・丸の内エリア。この地の開発を担ってきた三菱地所は現在、丸の内の活気を隣接する大手町・有楽町エリアへ広げる面の拡大と、時代のニーズを取り入れた都市機能の〝深まり〟を掲げて開発計画を進めている。

同社の取り組みの中でもユニークな事例が大手町エリアで進めている開発プロジェクト。開発地内で温泉を掘削し〝おもてなし〟文化を象徴する日本旅館を開業する。中長期の滞在が可能なサービスアパートメントも設ける。英語対応可能な医療を担う病院も開業済み。皇居周辺を訪れる外国人観光客の増加も見越し、外苑濠の水質改善に向けて濠水の浄化施設も整備する計画。

虎ノ門地区の開発はまだ始まったばかり(虎ノ門ヒルズ=森ビル提供)

都市力向上へ「魅力」創出

三井不動産が進める再開発は東京・日本橋が持つ歴史と文化を今に生かす取り組みが注目される。大規模複合ビル2棟を建設する日本橋2丁目地区では重要文化財の高島屋日本橋店を保存し、同地区の核とする計画。日本の伝統的な生活文化を展示する施設なども設置する。周辺エリアと一体となった新たなにぎわいの創出を目指す。

森ビルは複合施設「虎ノ門ヒルズ」(東京都港区)を14年に開業した。建物の地下には東京五輪の競技会場と湾岸部の選手村を結ぶメーンストリートを構成する道路が通る。20年には地下鉄の新駅も予定されている。虎ノ門は東京五輪の追い風を最も強く受ける地域と言えそうだ。

ただし、虎ノ門地区の開発はまだ始まったばかり。同社は港区エリアに今後10年で総事業費計1兆円のプロジェクトを進める方針だ。大規模な開発を進めながらも地域の特色を生かす考えに変わりはなく、コミュニティーを守り、育てながら地域とともに街を育てようとしている。

都市の競争力をめぐる国際的な競争は年々激化している。五輪開催が決まり、世界からの注目が集まる今こそ「都市力」を高めるチャンスと言えよう。ただし不動産の開発事業は単年度という時間軸では進まない。三菱地所が丸の内の開発に着手したのは120年前にさかのぼる。森ビルが手がけた民間による初の大規模再開発「アークヒルズ」は開業から30年たった今も街の魅力向上に力を注いでいる。

森トラスト
という戦略。

不確実性が高まっている現在。
未来を拓く鍵は、リスク耐性だけではない。
次世代の商機を掴む戦略。
共益の思想を持つ企業とのパートナーシップ。
この一手が、新しいビジネスを創造する。

その先の未来を託される企業として

都市を託される責任。 MORI TRUST GROUP

丸の内トラストシティ(丸の内トラストタワー本館・N館)